

講演要旨

「Infineum Trends Seminar 2014」

燃料・潤滑油の最新動向について

2014年9月25日

インフィニアムジャパン株式会社

石部 信之

インフィニアムでは毎年、欧米の燃料、潤滑油や自動車業界のトレンドをまとめてトレンドセミナーを開催している。前身のエクソン化学・パラミンズの時代から通算すると昨年で50周年となり、今年は51年目を迎えた。

国連本部で今年の9月23日気候変動サミットが行なわれ、120を超える国々の首脳が集まり、温室効果ガスを削減し気温の上昇を抑えるよう努力することで合意した。自動車業界では環境保護と温室効果ガス削減のため、CO₂の削減や省エネルギーへの取り組みが絶え間なく行なわれている。各国の燃費規制を満足するためハイブリッド、スタート/ストップシステムやダイレクトインジェクション、エンジンのダウンサイジングにより大幅な自動車の燃費向上を達成している。新たな技術の導入によりプラス面だけではなくマイナス面として、ターボチャージャーの不具合、カムシャフトのタイミングチェーン摩耗や、低速における異常燃焼プレイグニッション (LSPI) が報告されるようになった。これらの問題を燃料・潤滑油の側から解決しようという取り組みが精力的に行なわれており、石油業界や添加剤業界の果たす役割は大きいと考える。

燃費の向上を図るため潤滑油の低粘度化、低フリクション化が進み、昨年の4月にはSAEに新たな粘度分類 xW-16 が追加された。低粘度油・低フリクション油の分野では日本は先端の技術を有し、世界に先駆け複数種類の0W-16油が日本の市場ですでに販売されている。ここでは欧州・北米における燃料・ベースオイルや潤滑油の動向にふれ、ガソリンエンジン油やディーゼルエンジン油の最近の規格 ILSAC GF-6 や PC-11 の開発動向を報告する。またインフィニアムの最新の添加剤の紹介や、添加剤の配合技術確立に向けての取り組みについて解説する。

担当 全国石油工業協同組合

三木 次夫